

さ ざ ん か

第94号、2009年9月

政権交代がありましたね。どういうニッポンになっていくのでしょうか。少なくともこれまでのやり方は、これまでは正しかったのかもしれませんが、これからは正しくなさそうだ、という国民の選択だったのでしょうか。どういうやり方が本当に正しいのかはなかなか分かりませんが、いずれにしろ何もかも右肩上がりの時代は終わった、ということだけは確かなことのようにです。地球が有限である、と気付いたのはつい最近のことです。

医療や福祉の分野も少しは変わってくれることを期待したいものです。なにもかも「自己責任」で片付けられては困りますものね。健康管理も自己責任、病気になったらそれはあなたが悪い、自分で医療費を工面しろ、保険に入っていない？それはあなたが悪い、万が一に備えて民間の医療保険に入っているのが「自己責任」というものだ。老後の生活が苦しい？年金にばかり頼るからそうなるのだ。年金だけに頼らずに「自己責任」で老後の生活のことを考えてこなかったあなたが悪いから、それは仕方のないことだろう。国の年金に頼らずに自分で民間の保険に入っておきなさい。

障害があるからと云って生活をすべて税金に頼っていてはあなたのためにならない。出来るだけ自立しなさい。自立するためにはあえて補助金を減らしますから、「自己責任」で自立しなさい。だいたいそういうことを云ってきた人達は、自らの「自己責任」は放棄して「無責任」に官僚を辞めたら天下りして多額の年金を貰う算段をしているじゃないか、という妄想らしきものにすらかられてしまいます。

いずれにしろ、民主党がずっとこけたら、次は新生自民党がまた新たな構想で政権をとり、民主党の失敗を反省に更に良い政治をすることになる。それが政権交代の意味ですから、是非そうやって欲しいものです。でもできるだけ、民主党に頑張ってもらいたいと思います。いまの自民党の再生にはもう少し時間がかかりそうですから・・・。

==== 俳句 ==== 西屋敷喜美子

新涼や なめらかなりし 三味の音

梨園や 長十郎の 試食出る

運転の 講習受くる 秋の風

病院からのお知らせ

- * 新型インフルエンザが猛威をふるいつつあります。手洗い励行はそのまま続けましょう。発熱して心配な方は、早めに受診してください。考えようによっては、早めにかかって早めに新型インフルエンザに対する免疫をつける、というのも逆説的には良いのかもしれませんが。
- 季節性インフルエンザのワクチンもぜひ例年通りおこなうようにしましょう。

- * 神経内科外来は火曜日が鹿児島大学からの神経内科専門医が担当し、それ以外の曜日は高橋先生の担当になります。
- * 毎月第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。その他肝臓病外来（4月から月2回に増えます）、糖尿病外来（月、金：福重先生）の専門外来も開設しております。
- * 脳神経外科外来について：4月からはやむなき事情により週1回金曜日になっております。担当医師などの詳細は脳神経外科外来でお尋ね下さい。
- * 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてはいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- * MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- * MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- * 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- * 「さざんか」への投稿をお待ちしております。苦言、提言、自作の詩歌、エッセイ、家族自慢なんでも構いません。記念もかねて一度投稿してみてもはいかがでしょうか。原稿料はありませんので、ねんのため。勿論、掲載料もありません。

昔と今

別府政隆

私も3年前に70才を迎えました。妻と結婚して48年。長男、長女の子宝にも恵まれ、それぞれ結婚して孫達も、高校、大学へと進学している。月に一度は必ず連絡してくるが、私達に取っては楽しみの反面、金銭的に困ることも少なくない。でも、それでも孫はやっぱり可愛いものです。孫を持つ家庭には皆、同じ様なことがあるのでは。そう考える時、今の私達に取っては日頃の辛抱が肝心です。

また、これまでの自分の人生を振り返り見る時、物不足の時代に育ち色々体験してきたが、今の子供達に何も通じないのである。現在は今の生き方しか出来ない世の中である。私達老齢の身は、子供達や世の人に合わせて生きるのが精一杯であり大変でもある。

今から凡そ20年前の事、妻が脳梗塞で当院北薩病院へ入院した。当時神経内科担当医が今の高橋院長だった。お陰さまで無事退院できたが、それ以来現在まで通院治療を続けています。顔なじみも増えたが、最近でも年を重ねる度に不安は出るものの、生きている限りは、妻と共に1日一日を大事に過ごすことに専念しています。

妻と2人暮らしの現在は、子供や孫達からの連絡が私達に取っては唯一の楽しみでもあるのです。また、老人会の大役、重任を引き受けて2年。出会える機会も多いが、自分の生き甲斐の一つとして全ての会合に参加している。友人も大分増えました。この機会に1人でも多くの友人を大事にしたいものです。

アリとキリギリス

カラーマン（とその女）

楽しい事、面白いことがめっきり少なくなってきたこのごろ。人生で言えばまあ、秋というか白秋と云うのがぴったりの年代になってしまった。ああ、青春はいずこ。そもそも秋と云う季節はなかなか笑えないというか、笑う気分にならないなあ。感傷の秋、スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋などあるけどお笑いの秋と云う言葉はあまり聞かない。

（自然界のように、秋が来て、冬が来て、そしてまた春が来るのなら良いけれど人生は秋のあと冬が来てそれでジ・エンドだわ。悲しい幻冬。人生の冬の後にはもう春は来ないのよ、あなた。笑ってる場合じゃないでしょうよ）

そう。悲しい人生。だからこそ、必要なのが笑いなのである。笑いとは悲しみ。樂觀と悲觀。まあ、よく考えてみると、お笑い番組などを見ているときは別にして、笑う時ってというのはそうそう日常にはないものだ。（お笑い番組もあたしはあまり面白く思わなくなってきたわ。なぜかしら？あまりにも過剰に溢れすぎたからかしら。だいたい、テレビはどここのチャンネルもお笑い番組かお笑い芸人が出演している料理番組かクイズ番組だもの

ね。)

楽観と悲観の例えにこういうものがある。砂漠で遭難した時に、ペットボトルに半分水が残っていたとしよう。楽観論者は、おお、まだ半分も水があると安堵し、悲観論者はああ、もう半分しか水がないわと嘆く。これは同じペットボトル半分の水でも、その解釈の立場によって心構えが変わる、という例えだと思ふ。多分、半分も水が残っていると思ひ、楽観的に考えた方が良いでしょう、ということだろう。それを人生にあてはめて、人の命には限りがありどうせ死んでいく運命の人生だからといって、それを悲観することなく、むしろ楽観的に捉えれば人生は又楽しくなりますよ、ということではないだろうか。

(それはそうだけど、何となく安易な例えだなあ、と思ふわ。あたしはそんなに単純に割り切れないなあ。あたしの人生とペットボトルの水では重さが違うわ)

い、いや、これは例えだよ。例え。ものごとを考えるときには例えが必要となることもあるだろう？そりゃあ、人生を考える、つまり何のため人は生きるのかとか、自分の生まれてきた意味は何なのか、などと考え始めるととてつもない迷路にハマってしまうのが、人の常だ。ソクラテスとかプラトンの時代から始まって、多くの哲学者が難しい論文を書いて、その論文や思想を解釈するのに人生を捧げたりする評論家が出てきたりするくらいだからそんなに簡単に人の生き方を楽観、悲観論だけでは分けられないのは分かっていることだ。(そうよね。なぜ芸術が生まれたのかとか、なぜ、スポーツをするのかとか、なぜ人は社会生活を築いたのかとか、人生について考え始めると訳が分からなくなってしまうわ。)

だけど、ニュートン力学や、アインシュタインの相対性理論を知らずとも、世の中では物体は高いところから低いところへ落ちるし、光は毎日降り注いでいる。哲学者や、教師や、物理学者や医者や科学者など学問を修めた人が、その他の人よりも充実した人生を送っているということはないだろう。詳しいことは知らなくても、生きる姿勢というか、人生の立ち位置を楽観か、悲観かと考えることはそれなりに大切なことなのだろうと思ふ。

そもそも、このペットボトルの例えでいうと、まだ半分もあるとあって楽観する人間は安心して水を安易に飲んでしまいその後、新たな水にたどり着けずに早めに死んでしまうかもしれないし、水が半分しかないと悲観した人間は、水を大切に使いなんとか水がある場所までたどり着いて長生きするかもしれない、と考えたとき、必ずしも人生は楽観論で行くべきだということにはならないだろう。

アリとキリギリス。悲観論者がアリで、楽観論者がキリギリスだとすると、むしろ人生

はアリのようでありなさいとこの物語は語っていることになる。

(そうよねえ。でも、アリのように働いて、ギリギリのように楽しむ、ということではできないのかしらね。あるいはギリギリのように遊びながら、アリのように堅実でもある。おなじことのようにだけど・・・)

それだ。そうなのだ。アリとギリギリの例えのおかしいところは、選択肢が2者択一しかない、ということだろう。アリのようでもない、ギリギリのようでもない生き方もあるはずだし、楽観論か悲観論かも2者択一ではないのだろう。苦しいときは、楽観論者になりまだまだ水は半分もあるぞと考え、楽しい時は悲観論者になり、もう半分しかないから気をつけなければならないぞ、と思うことが肝要なのだ。

何も人生を首尾一貫して楽観的に生きる必要もないし、悲嘆にくれて毎日過ごす必要もないのだ。正規分布、もしくはべき分布からいうと大多数の人間はそれでいいのであろうと思う。真ん中から外れた一部の選ばれた人間が超楽観主義者になり、超悲観主義者になるのであろう。そして、そういう彼らの中からのみ偉大な宗教家や芸術家や哲学者が出現するのだろう。

凡人のわれわれは、時には楽観的に(躁的)になったり、悲観的(鬱的)になったりして日々を、そして人生を送っていくのだろう。そう考えると、白秋や幻冬もまた悪くはない。嘆きながら、苦しみながら、一方で人生を楽しむ。そのためにこそ笑うことの意味が大きくなってくる。お笑い番組がはやっているのも人々が日々の生活の中でなにがしかの笑いを求めているからだだろう。

終わりよければすべて良し。赤ん坊の時、泣きながら生まれてきたこの世の中。出来る事なら、生まれてきた時とは反対に、笑いながらこの世を去りたいものである。

編集後記

秋ですねえ。虫の声を聞くまでもなく、朝晩の冷え込みは間違いなく秋の訪れを告げています。皆さんにとって、何回目の秋でしょうか。そして、あと何回くらい夏から秋への心地良い移ろいを経験することができるのでしょうか。間違いなく自然は来年の秋を連れてきてくれます。しかし、人生は自然とは違います。来年の秋は来ないかもしれません。そう思うとき、やはり、1日1日を大切にしたいと切に願うのですが、どうしても怠惰に過ごしてしまう日常、そんな自分に切齒扼腕したりもしますが、それもまた人生でしょうか。

(KT)

